九州地方

名前

問1　日本の畜産業において「宮崎牛」に代表されるような取り組みが行われている理由を、市場の状況から説明したものとして正しいものはどれですか。（2023年 福島県公立入試 類似）

1. 安価な外国産の肉の輸入増加に対し、品質の向上による差別化で対抗するため。
2. すべての国内産の肉を同じ名称で統一し、消費者が選びやすくするため。
3. 国内の肉の消費量が急激に減少したため、生産量を減らして希少価値を高めるため。
4. 外国産の肉よりも価格を安く設定し、低所得者層向けの市場を開拓するため。

問2　九州地方南部の地形図において、標高の高い平坦な場所に「畑」や「茶畑」の地図記号が集中して見られる地域があります。この地域の土地利用の背景として、土壌の性質の観点から説明したものとして適切なものはどれですか。（2017年 滋賀県公立入試 類似）

1. 海岸に近く塩害の影響を受けやすいため、塩分に強い農作物のみを栽培している。
2. 土壌に栄養分が極めて豊富であり、一度の作付けで多量の米が収穫できるため。
3. 標高が高く冷涼な気候であるため、寒さに強い果樹の栽培に特化している。
4. 水が地下に浸透しやすく水田としての利用が困難なため、畑作や畜産が行われている。

問3　阿蘇山に見られる「カルデラ」と呼ばれる地形に関する説明として、その成り立ちと内部の様子を正しく組み合わせたものはどれですか。（2022年 愛媛県公立入試 類似）

1. 地殻変動によって山地が海に沈んで形成され、複雑に入り組んだ海岸線が天然の良港として利用されている。
2. 川が山地から平地へと流れ出す場所に土砂が堆積して形成され、水が得やすいため古くから大規模な都市が発達している。
3. 大規模な噴火のあとに中央部が陥没して形成され、内部には平坦な土地が広がり集落や農地が存在している。
4. 火山灰が長期間にわたって厚く降り積もって形成され、水はけが良すぎるため稲作には向かない広大な台地となっている。

問4　九州地方の5県（佐賀、熊本、大分、宮崎、鹿児島）における2014年の耕地面積の統計によると、佐賀県や熊本県では田の面積が畑の面積を上回っていますが、鹿児島県では全耕地面積に占める畑地の割合が突出して高くなっています。鹿児島県においてこのように畑作が盛んである主な理由として、土地の性質について説明したものを選びなさい。（2016年 岡山県公立入試 類似）

1. 有明海沿岸の干拓によって得られた土地が、塩分の影響で稲作よりも畑作に適していたため。
2. 火山噴出物が堆積したシラス台地が広く分布しており、水持ちが悪く稲作に不向きであったため。
3. 筑紫平野のような平坦な低地が広がっており、排水作業を行って広大な畑地を確保しやすかったため。
4. 山間部を切り開いた棚田が多く作られたが、近年の機械化に伴いその多くが果樹園へと転換されたため。

問5　九州地方の自然環境とそれを利用した産業について述べた文として、正しいものを次の中から選びなさい。（2018年 千葉県公立入試 類似）

1. かつて石炭産業で栄えた筑豊地域では、エネルギー革命による需要の変化に伴い、火山の地熱を熱源とした繊維工業や食料品工業への転換が進んだ。
2. 九州南部に広がるシラス台地は、火山灰が降り積もってできた水持ちの良い地質であるため、古くから大規模な稲作地帯となっている。
3. 阿蘇山やくじゅう連山などの活火山が多い地理的条件を活かし、大分県などを中心に地熱エネルギーを利用した発電が盛んに行われている。
4. 明治時代に官営の八幡製鉄所が福岡市に建設されたことで、周辺の火山から産出される鉄鉱石を利用した重化学工業が発展した。

問6　九州地方の南から日本の太平洋側に沿って流れる海流について、低緯度から流れてくる「暖流」であり、周辺地域に冬でも温暖な気候をもたらす特性を持つものの名称はどれですか。（2024年 徳島県公立入試 類似）

1. 黒潮（日本海流）
2. リマン海流
3. 対馬海流
4. 親潮（千島海流）

問7　宮崎平野できゅうりなどの栽培に用いられる、ビニールハウスなどの施設を利用して作物の成長を早め、通常の出荷時期よりも前倒しして出荷する栽培方法を何といいますか。（2023年 福島県公立入試 類似）

1. 抑制栽培
2. 促成栽培
3. 近郊農業
4. 二毛作

問8　九州地方南部に広がるシラス台地は、火山灰が堆積してできた地形で水はけが良すぎるため、古くから稲作には不向きとされてきました。このような自然環境を背景に、鹿児島県で特に発展した農業の特色として最も適切なものはどれですか。（2019年 山形県公立入試 類似）

1. 水はけの良さを活かしたサツマイモなどの畑作や、肉用牛・豚などの畜産業
2. 温暖な気候を利用したビニールハウスによるピーマンやきゅうりの促成栽培
3. 広大な土地を利用した乳用牛の飼育と、バターやチーズなどの乳製品の加工
4. 急傾斜地を切り拓いて作られた段々畑での温州みかんやレモンなどの果樹栽培

問9　九州の北方に位置し、古くから日本列島と朝鮮半島を結ぶ海上交通の中継地となってきた島と、その付近を通り日本海へと流れ込む暖流の組み合わせとして正しいものを、次のうちから選びなさい。（2019年 埼玉県公立入試 類似）

1. 対馬・対馬海流
2. 対馬・リマン海流
3. 壱岐・日本海海流
4. 壱岐・対馬海流

問10　九州地方南部や四国地方の太平洋側では、冬でも雪が少なく温暖な気候を利用して、ピーマンやきゅうりなどの促成栽培が盛んに行われています。このような温暖な気候をもたらす主な要因について、海流の性質に注目した説明として最も適切なものを選びなさい。（2023年 岡山県公立入試 類似）

1. 日本海側を北上する対馬海流が、対馬海峡を通じて太平洋側に大量の熱を供給しているため。
2. 大陸沿いに南下するリマン海流によって、冬の乾いた季節風が温められるため。
3. 低緯度から熱を運んでくる「暖流」である黒潮が、日本の南岸から東岸に沿って流れているため。
4. 高緯度から冷たい水を運ぶ「寒流」である親潮が、太平洋の沿岸部を冷やしているため。

問11　九州南部の鹿児島県などに広がる火山灰層からなる台地において、古くから水田稲作があまり行われず、サツマイモや飼料用トウモロコシなどの畑作、および畜産業が発展した理由として、土壌の性質の観点から最も適切な説明を選びなさい。（2018年 岩手県公立入試 類似）

1. 火山灰に含まれる栄養分が多すぎるため、稲が成長しすぎて倒伏してしまうため。
2. 土壌の浸透性が非常に高く、水田に必要な水を地表に保持しておくことが困難であるため。
3. 土壌が非常に硬い岩盤状になっており、農作物の根が深く張ることができないため。
4. 土壌に塩分が多く含まれており、稲の成長を妨げる性質を持っているため。

問12　九州地方に位置するある県に関する統計において、第1次産業の就業者割合が10%を超えており、農業産出額が4000億円を上回る全国有数の規模となっています。また、この県の製造品出荷額で最も大きな割合を占める品目が「食料品」であるとき、あてはまる県名はどれですか。（2016年 山形県公立入試 類似）

1. 静岡県
2. 千葉県
3. 山形県
4. 鹿児島県

答え合わせ・解説

問1	答え 1 安価な外国産の肉の輸入増加に対し、品質の向上による差別化で対抗するため。	安価な外国産の肉との価格競争を避けるためには、消費者に「高くても買いたい」と思わせる理由が必要です。地域名などを冠したブランド化は、消費者に安心感や高級感といった品質面での優位性をアピールする有効な手段となっており、九州地方をはじめとする日本の畜産農家の重要な生存戦略となっています。
問2	答え 4 水が地下に浸透しやすく水田としての利用が困難なため、畑作や畜産が行われている。	シラス台地は火砕流堆積物からなる地層であり、非常に多くの隙間があるため、降った雨がすぐに地下へ抜けてしまいます。川やため池から水を引き込むことも困難だったため、稲作ではなく、乾燥に強い作物を選ぶ必要がありました。こうした背景から、畑作や広大な土地を活かした畜産業がこの地域の主要な産業となっています。
問3	答え 3 大規模な噴火のあとに中央部が陥没して形成され、内部には平坦な土地が広がり集落や農地が存在している。	カルデラは火山活動による陥没でできた地形ですが、その内部は非常に広大で平坦な土地が広がっている場合があります。阿蘇山では、このカルデラの中に数万人が居住する集落があり、水田や畑などの農地、さらには鉄道（JR豊肥本線）や国道といった交通網も整備されているのが大きな特徴です。他の選択肢はシラス台地、扇状地、リアス海岸の説明です。
問4	答え 2 火山噴出物が堆積したシラス台地が広く分布しており、水持ちが悪く稲作に不向きであったため。	鹿児島県から宮崎県にかけての九州南部には、過去の火山活動による噴出物が厚く堆積した「シラス台地」が広がっています。この土地は水はけが良すぎて水持ちが悪いため、大規模な水田を作ることが困難でした。そのため、古くから稲作ではなくサツマイモや茶などの畑作、あるいは広大な土地を利用した畜産が発展してきました。これに対し、佐賀県などの平野部では水田率が高い傾向にあります。
問5	答え 3 阿蘇山やくじゅう連山などの活火山が多い地理的条件を活かし、大分県などを中心に地熱エネルギーを利用した発電が盛んに行われている。	九州地方は阿蘇山や桜島などの活火山が多く、火山活動による熱エネルギーが豊富なため、大分県の八丁原発電所に代表される地熱発電が盛んです。選択肢にあるシラス台地は水持ちが悪いため稲作には適さず、サツマイモなどの畑作や畜産が行われています。また、官営八幡製鉄所が建設されたのは福岡市ではなく現在の北九州市であり、筑豊炭田の石炭を利用していました。筑豊地域におけるエネルギー革命後の産業転換は、主に自動車産業の誘致などであり、地熱を利用した工業転換という記述は誤りです。
問6	答え 1 黒潮（日本海流）	九州から本州の南側を流れるこの海流は、赤道付近の低緯度海域から熱を運んでくるため、沿岸の気候を暖かく保つ役割を果たしています。別名を日本海流と呼びます。これに対し、千島列島から南下してくる親潮（千島海流）は寒流であり、対馬海流は日本海側を流れる暖流です。
問7	答え 2 促成栽培	冬でも暖かい九州地方の気候を活かし、ビニールハウスできゅうりやピーマンなどを育てる方法を促成栽培と呼びます。他の産地の出荷が少ない冬から春にかけて市場に供給することで、農産物を高い価格で販売できるという利点があります。これに対し、高冷地などで収穫時期を遅らせる方法は抑制栽培と呼ばれます。
問8	答え 1 水はけの良さを活かしたサツマイモなどの畑作や、肉用牛・豚などの畜産業	鹿児島県の大半を覆うシラス台地は、水分を保持しにくい性質があるため、水田稲作よりも畑作に適しています。このため、乾燥に強いサツマイモの栽培や、広大な台地を利用した肉用牛・豚・鶏（ブロイラー）などの畜産業が組み合わされ、全国有数の農業地帯となりました。他の選択肢のうち、促成栽培は宮崎平野や高知平野、果樹栽培は愛媛県や和歌山県、大規模な酪農は北海道などで顕著に見られる特色です。
問9	答え 1 対馬・対馬海流	九州の北方に位置する対馬は、朝鮮半島との距離が近く、古くから外交や貿易の要衝としての役割を果たしてきました。この対馬の近海を通り、東シナ海から日本海へと北上する暖流は対馬海流と呼ばれます。選択肢にある壱岐は対馬と九州本土の間に位置する島であり、リマン海流は日本海を南下する寒流のことです。
問10	答え 3 低緯度から熱を運んでくる「暖流」である黒潮が、日本の南岸から東岸に沿って流れているため。	黒潮（日本海流）は低緯度の暖かい海域から流れてくる「暖流」であり、周辺の気温を上昇させる働きがあります。この海流が九州南部から四国、関東にかけての太平洋沿岸を流れているため、これらの地域は冬でも温暖な気候が保たれています。この気候的特色は、ビニールハウスなどを利用して野菜の出荷時期を早める促成栽培にも活用されています。
問11	答え 2 土壌の浸透性が非常に高く、水田に必要な水を地表に保持しておくことが困難であるため。	シラス台地を構成する火山灰や軽石の層は、隙間が多くて水を通しやすい（水はけが良い）という特徴があります。この性質は、常に水を張っておく必要がある水田（稲作）には不利に働きます。そのため、水分が少なくても育つ作物や、広大な土地を利用した畜産業がこの地域の主な産業となりました。近年では、灌漑施設の整備により、一部で野菜栽培なども行われています。
問12	答え 4 鹿児島県	鹿児島県はシラス台地が広がる地理的特性から、古くよりサツマイモの栽培や、豚・茶などの生産といった畜産業・畑作が非常に盛んです。第1次産業の就業者割合が全国平均と比べても高く、豊かな農畜産物を原材料とした食料品加工業が地域の製造業の中心を担っているため、製造品出荷額でも食料品が第1位となっています。